

東日本大震災の被災地の若者たちと米国の合唱団の歌声が今春、ニューヨークに響いた。マーラーの交響曲第2番「復活」のコンサート。プロデュースをしたニューヨーク在住の指揮者、山田あつしさん(48)は来春、2回目のコンサートを計画し、被災地の子供たちによる合唱団編成の準備を進めている。「世界共通の言語の音楽を通じ、継続的サポートを呼びかける」と話している。(松原英夫)

「復活」の最終楽章…。ニューヨーク・シティ・オペラ(NYCO)の有志たちによるオーケストラの、叫ぶような演奏で始まる。

コーラスは、福島県南相馬市の小中学生・高校生ら女声のMJCAアンサンブルと、宮城、岩手の大学合唱団のメン

NYでの震災復興公演を企画

山田あつしさん



①今春、ニューヨークで開かれた復興支援コンサート。被災地の若者たちが「復活」を歌いあげた(写真提供・GION)
②指揮者の山田あつしさん(渡守麻衣撮影)

国境越え若者の友情育む

バー。米国からは女性のソリストと大学合唱団が加わり、総勢150人の混声合唱団が歌い上げた。「被災地の若者が『復活』を歌う姿、オーケストラの質、会場…。すべて

最高の舞台。音楽の力を再認識しました」。山田さんは、こう振り返った。

大震災の時、ニューヨークは未明。外出先にいた。「ア

メリカの友人たちから『日本が大変だぞ』という連絡がありました。言葉も出なかった。災害の直後は、日本国内でも国際レベルでも助け合うだろうと思いました。でも、いかに継続して心を支えていくか。それが音楽をやっている私のテーマだ」と。

代、グリーククラブで活躍。指揮の経験も積んだ。1995年1月17日の阪神大震災当時は、保険会社の営業マンのかわらちアマチュア合唱団を主宰。チャリティーコンサートをシリーズで企画。その後好きな音楽を続けたい」と渡来し、NYCOに日本人として初めて採用された。1999年にオペラ指揮者としてデビュー。2001年9月11日のニューヨーク同時テロの時も復興支援コンサートを企画している。

「次世代を担う若者たちが、音楽を通じて友情の輪を世界に広げ、助け合えるようになってほしい」と山田さんはいう。

コンサートは来春3月、リンカーン・センターで行い、ベルデイ「レクイエム」などを予定している。

私の時間 エンタメ

合唱団を招きコンサートをやる」と決意。プロジェクト名は「ハンド・イン・ハンド(手を取り合って)」とした。

山田さんは早稲田大学時